

紀 要

RESEARCH INSTITUTE OF ECONOMIC SCIENCE
COLLEGE OF ECONOMICS
NIHON UNIVERSITY

第39号

論 文

- 経済の変化とその対応……………代表 塚 本 隆 夫
 ソースタイン・ヴェブレンのアーヴィング・
 フィッシャー経済学批判……………齋 藤 宏 之
 ソースタイン・ヴェブレンの本能論の展開……………高 橋 宏 幸
 進化思想とヴェブレンの経済学構想……………石 田 教 子
 —近年の諸研究に関するサーベイ—
 W. C. ミッチェルの集計的研究手法……………塚 本 隆 夫
 —G. ホジソンの所説の検討—
 マーシャルとイギリスの産業組織論の形成……………三 宅 忠 和
 スラッファ体系への道程……………藤 井 盛 夫
 労働者行動と賃金率の硬直性……………植 木 恒 幸
 —公正賃金率仮説と行動経済学に基づくミクロ的基礎—
 デジタル機器産業、デジタルコンテンツ産業と消費者の構造的関連性……………有 馬 守 康
 —消費者の保有する情報の私有化と共有化の選択に関する考察—
 中国の経済発展と産業集積に関する開発経済学・空間経済学・
 国際経済学の観点からの融合的研究……………代表 辻 忠 博
 東アジア3国と中央アジアの関係……………本 多 光 雄
 —ユーラシアン・ランド・ブリッジへの模索—
 新シルクロードにおける「ビーズ型」都市形成およびそのプロセス……………呉 逸 良
 新シルクロードの地域経済発展と「ビーズ型」開発戦略……………陸 亦 群
 新シルクロード地域における「ビーズ型」開発戦略を通じた
 経済発展の可能性について……………辻 忠 博
 中央アジアへの海外直接投資の立地要因分析……………井 尻 直 彦
 日本の証券市場におけるマイクロ・ストラクチャーの分析……………代表 三 井 秀 俊
 月次パネルデータを使用した日本と
 アメリカのコールオプション価格差の比較分析……………竹 内 明 香
 ボラティリティ変動モデルによるオプション評価の実証研究……………三 井 秀 俊

Summaries

2009.3